解説

私にとっての推進工事技士

渡邊（わたなべ） 立希（たつき）
アサヒエンジニアリング㈱
工営部
（推進工事技士 2級土木施工管理技士）

1 はじめに

私は工業高校の土木科を卒業後、2015年4月にアサヒエンジニアリングに入社し現在7年目になります。会社説明会に訪問した際に、舗装工事や一般土木工事と違ってライバルとなる推進工事の業者が少なく「静岡県内ではアサヒエンジニアリングしかないこと」「人々の暮らしになくてはならないライフラインを支えていること」などの主要業務説明に引き込まれ、工場で実際に掘進機を見させてもらい面白そうだと思い即入社を決めました。さらに家から会社が近かったことも決め手になりました。2019年に推進工事技士と2級土木施工管理技士を取得しました。現在は工営部で推進工事の計画書作成から日々の施工管理業務、竣工書類まで一貫して行っています。また、推進の経験を活かし掘進機のオペレータとしても活動しています。日々学びがあり、新しい発見もあるので成長しているという実感があります。

3年前に結婚して一昨年に息子も誕生し、休日にはフットサルの社会人チームで汗を流しています。仕事もプライベートも共に多忙で充実した日々を送っています。

2 資格取得を目指したきっかけ

入社当初は、工業高校土木科卒なので一般土木の知識はそれなりにありましたが、推進技術の知識は全くありませんでした。入社してから、様々な現場で仕事をしていくうちに少しずつ推進技術の知識と経験が増えていきました。徐々に現場を任されるようになってきました。

そんな少しずつ自信がつきはじめたころ、元請の方から推進について質問されました。ところがうまく答えが見つからず返答することができなかったことがありました。その時に膨らみかけた自信がしぼんでしまい、もっとしっかりと推進技術の知識を増やさなければと自覚しました。そしてその近道が推進工事技士の資格取得を目指すことだと思いました。推進工事技士の資格を持っていれば、あの時の元請の方からの質問にも的確な回答を示すことができただろうし、私に対する見方が変わったのだろうと思いました。

3 活用事例

私は、推進工事の施工管理業務を主な仕事としています（**写真－1**）。入社してからずっとサクセスモールωの現場に携わっています。曲線推進の現場では施工計画書を作成するにあたり、推進力計算や管種の選定などがあります。資格取得前は計算式等の理解できず上司の助言なしでは作成は困難でしたが、今では自分の力で作成していくことができるようになりました。

資格取得後は日々の施工で元請の方との打ち合わせもスムーズになり、トラブルがあった際にも臨機応変に対